

# 第2章 北海道の現状と課題

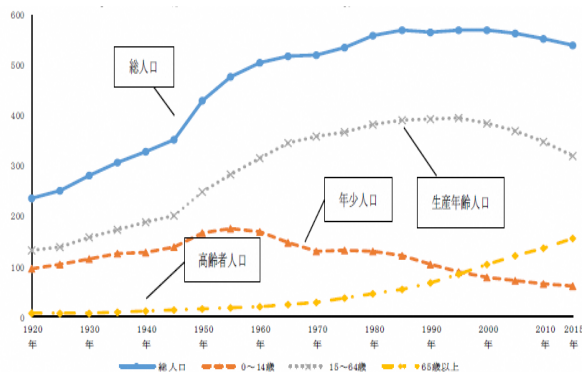
## 1 社会情勢の変化

### (1) 人口減少社会の到来

本道の将来人口は、総務省の国勢調査によると、年間の減少数が2030年代には1万人を超え、令和22(2040)年の総人口は約168万人と、令和2(2020)年と比べて約21万人減少するとされています。さらに、高齢者人口は令和22(2040)年頃にピークに達し、同年の高齢者比率は34.9%となり、その後も人口減少とともに高齢比率が上昇すると推計されています。人口減少とそれに伴う経済・産業活動の縮小によって、地方公共団体の税収が減少し、一方で、高齢化の進行から社会保障関係費に増加が見込まれるなど、地方財政はますます厳しさを増していくことが考えられます。

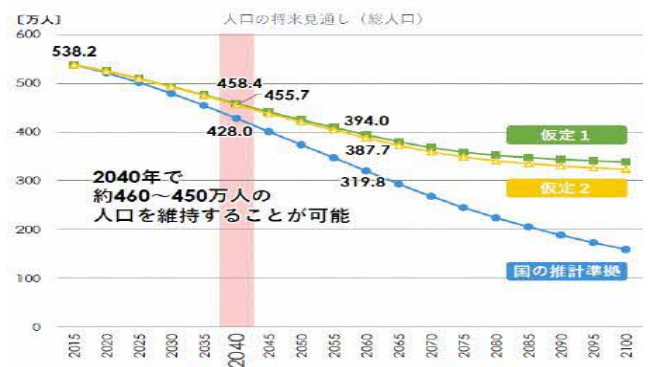
こうした社会においては、経験したことない課題が現れる中でも、他者と協働しながら、納得解を見つけ出し、その実現に向けて努力できる人材の育成が重要であり、多様な学習機会や情報の提供など生涯を通じた学びを推進する環境整備が求められています。

◇北海道の人口動向～年齢3区分別人口の推移



(出典)北海道総合政策部「北海道人口ビジョン(改正版)」

◇人口の将来見通し(総人口)



(出典)北海道総合政策部「北海道人口ビジョン(改正版)」

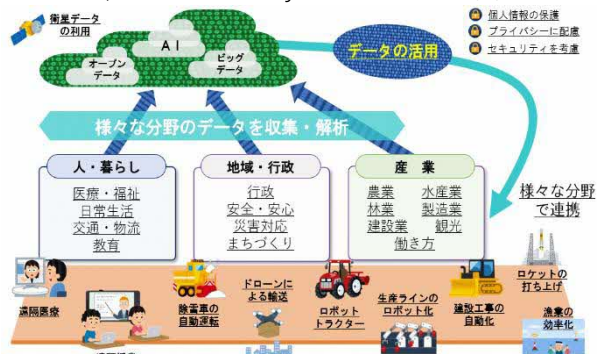
### (2) Society5.0の到来

近年、ICTなどの分野における技術革新は目覚ましく、昭和12(2030)年頃には、AI・IoT・ビッグデータ等の先端技術が高度化しあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会や生活が劇的に変わる society5.0 の到来が予想されています。

また、技術革新に伴い、各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断型な教育であるSTEAM教育の推進や、教育におけるAI・IoT・ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取組であるEdTechの活用など、教育方法の変化をもたらす可能性も示されています。

こうした社会においては、情報を取捨選択し読み取る新たな価値を創造できる人材の育成が重要です。

◇北海道 Society5.0 のイメージ図



(出典)北海道総合政策部

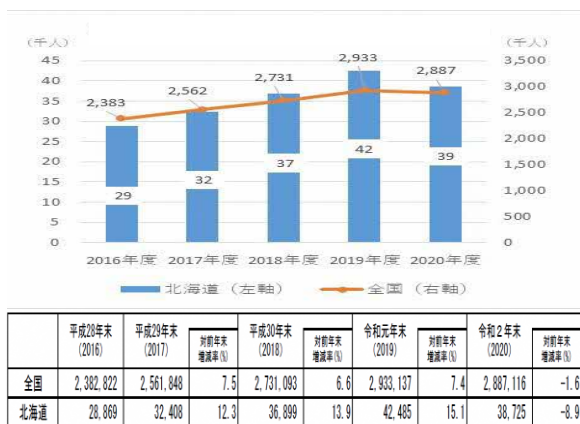
### (3) グローバル化の進展

グローバル化の加速により、世界の国々の相互影響と依存の度合いは急速に高まっており、環境問題や感染症、エネルギー資源問題など、地球規模の課題が増大する中、平成 27(2015)年に国連サミットで採択された SDG s (持続可能な開発目標)においては、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すこととされ、社会のあらゆる主体に SDG s の達成に向けた取組の推進が求められています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、各国経済が停滞する中で自由貿易体制の基盤が揺らぎ、保護主義の拡大が懸念されています。こうした危機に対し、国は、自由で公正な貿易・投資の基盤を支え、そのメリットを享受する経済を目指しています。

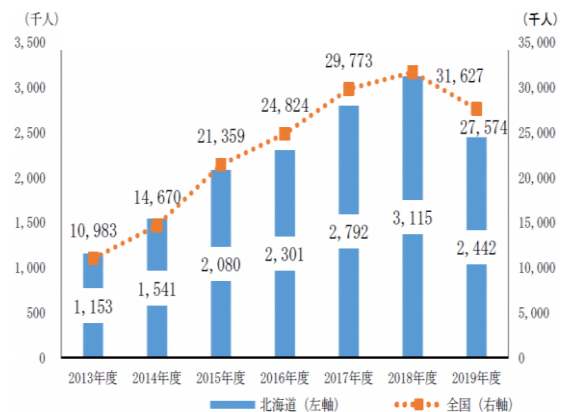
こうした社会においては、言語や文化が異なり、多様な価値観を持つ人々ともコミュニケーションを図りながら、柔軟に対応できる人材の育成とともに、グローバルな視点をもって、豊かな地域社会の創造・発展に積極的に硬変しようとする志を持った人材の育成が重要です。

◇在留外国人数の推移



(出典) 法務省出入国管理庁「在留外国人統計」

◇訪日外国人客数の推移(北海道、全国)



(出典)法務省出入国管理庁「在留外国人統計」

### (4) 子どもたちを取り巻く状況の変化

人口減少社会や society5.0 の到来、グローバル化の進展など、今後、将来の予測が困難な時代の到来に向け、「社会に開かれた教育課程」という理念の下「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」といった視点を踏まえた新学習指導要領が小・中・高等学校で順次実施されています。

一方、児童生徒のスマートフォン等の利用時間の増加、自然や文化芸術等の体験活動の機会の減少、特別な支援を必要とする児童生徒の増加、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による学校生活の変化など、子どもたちを取り巻く状況が大きく変化し、様々な価値観による多様な教育的ニーズが変化してきています。

こうしたことから、教育の質の向上と児童生徒の豊かな成長に向けた教職員の働き方改革の推進とともに、社会のニーズに対応した各種教育の推進が強く求められています。